

# 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果

## 評価結果基本情報

評価年度	平成 27 年度
サービス名称	認可保育所
法人名称	社会福祉法人しろはと会
事業所名称	西糀谷しろはと保育園
評価機関名称	株式会社 地域計画連合

## コメント

・事前説明にあたっては、平成 27 年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。  
・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。  
・確認根拠資料は、訪問調査の概ね 3 週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。  
・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。

(内容)

- I 事業者の理念・方針、期待する職員像
- II 全体の評価講評
- III 事業者が特に力を入れている取り組み
- IV 利用者調査結果
- V 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7、8)
- VI サービス提供のプロセス項目

公益財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

## I 事業者の理念・方針、期待する職員像

1	理念・方針 (関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定)
	事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)

	1)子どもの個性・人格を尊重し自立を促す 2)日々の生活の中で家族と共に、その成長発達の援助を行なう 3)地域社会に開かれた施設として、積極的に貢献する 4)仲間づくりと身体作りを大切に「生きる力」を育てる 5)差別意識のない環境
<b>2</b>	<b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b>
	(1)職員に求めている人材像や役割 職員ひとり一人が違うように子ども達も個々の違いがある。一人一人の違いを見つめながら対応できる力を身につけていきたい。その為には職員同士がお互いを認め合い助け合える職場づくりを目指します。
	(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 保育園は福祉サービスであることを念頭に子どもの最善の利益を考えて保育にあたらなければならない。子どもの命、権利をしっかりと守り個々に寄り添う丁寧な日常保育を期待しています。

## II 全体の評価講評

### 全体の評価講評

#### 特に良いと思う点

1	<b>子どもが自ら遊びたくなるようなコーナーやパーテーションで仕切ってじっくり遊べる環境をつくっている</b> 子どもが安全に遊べる環境にするため、床をビーターイルからフローリング素材にしたり、部屋の仕切りのドアをスライドにしたり、家具を連結して転倒防止をするなどの工夫をしている。また、保育室にはままごと・パズル・電車・手先の遊びなど、木製にこだわったおもちゃを種類毎のコーナーに分けたり、2階のロビーの空間で身体を動かす遊びができるようにしている。自分で遊びを見つけた子どもの様子によっては、パーテーションを使ってじっくり遊びこめるようにしている。
2	<b>法人の理念に基づき、地域に開かれた家庭的な雰囲気や大事にした保育を展開できるようにしている</b> 法人の理念にもあるように地域社会に開かれた施設であることを活動の柱にしている。そのため園の多くの行事はホームページや掲示板で地域に参加を呼びかけている。園の畑やコミュニティ農園で作ったさつまいもを使って園庭での焼き芋には地域の親子が参加したり、秋刀魚を丸ごと食べようという食育の取り組みでは、園庭で焼いた秋刀魚を地域の人と食べたり、バイオリンコンサートには地域の親子や高齢者が参加するなど、地域を巻き込んだ保育活動を展開している。
3	<b>健康な身体をつくるために、毎朝の体操や健康教育に取り組み、怪我や感染症の罹患率が減少するなどの成果を上げている</b> 様々な家庭環境を抱えた子たちが安全に遊ぶためには、身体を動かすことが必要と考え、毎朝園庭で体操をする機会をつくり、脳を活性化させ体内リズムを整えることの積み重ねが、怪我の予防や感染症にかかる子の数が減少傾向になっていると考えている。また、幼児クラスは年間10回の健康教育を行い、手洗いや歯みがき・風邪の予防・目の役割などを学ぶ機会を作り自分の身体について知る機会をつくるなど身体づくりの様々な取り組みをしている。

#### さらなる改善が望まれる点

1	若い職員も徐々にスキルを身につけており、引き続きOJTを重視した職員育成に取り組むことを期待する
---	--

	<p>若い職員が多い園であるが、体育遊びや造形など専門講師の指導を導入したり、元保育士のパネルシアターボランティアの協力を得たりすることで、経験の浅い職員も日常保育の中で様々なスキルが学べるように園運営を行っている。その結果、若手の職員も徐々に力をつけてきている。更に、職員育成を体系的に考えた階層別研修を企画し、OJTを重視しながら経験年数に見合った学びを、目標を設定して実施し、自己と他者(同僚・後輩・先輩職員)からのチェックによる効果測定を行うなど、確実に身につく方法で行っていくことを期待したい。</p>
2	<p><b>保護者からの要望に対する改善内容や保育活動の伝え方などの更なる工夫を期待したい</b></p> <p>保護者から寄せられた要望に対しては迅速に対応をすることが信頼関係に繋がると考え改善をし、その内容を手紙や掲示・メール配信などを活用し伝える努力をしているが、対応が不十分などの声が聞かれている。メールの未登録の人への連絡方法や掲示した内容が特定できる方法の検討などが必要かと思われる。また、幼児クラスの保育活動の様子は1日の様子として掲示されているが、何をして遊んだのかはわかるが、子ども同士のやり取りやエピソードを記録するなどの伝える内容の検討も期待したい。</p>
3	<p><b>計画・記録等、事務量の整理を行い、職員がゆとりを持って保育にあたることを期待する</b></p> <p>職員調査結果からは、質の高いサービスを目指すあまり仕事が多くなり、職員が疲弊している様子も垣間見えた。事務処理についてはクラス毎に年間の振り返りも行っており、既に事務量の洗い出しを行い、日誌の記載内容を検討して書式を変更するなど着手している。引き続き仕事量が多いと感じる原因・対応策を全職員で話し合い、清掃等部分的な業務は発想を転換して外部委託する、記録の内容が重複するところ(例えば連絡帳の記載を保育日誌として活用)に工夫点を見出し、職員がゆとりを持って保育にあたる環境づくりを推進することに期待する。</p>

### Ⅲ 事業者が特に力を入れている取り組み

1	<p><b>★ 防災や危機管理への意識を高め子どもの安全確保に取り組んでいる</b></p> <p>専門機関を導入して危機管理研修を実施し、クラス毎に事故対策チェックリストに基づいて職員がチェックしている。食物アレルギー児への対応は、トレーに顔写真を貼るなど職員が替わっても間違えが起らないよう配慮している。今年度は、危機管理を園内研修のテーマのひとつに設定し、担当職員グループが公園や避難経路の安全を確認し写真に撮って取りまとめ全職員と危険箇所について共通認識を持った。また、保護者にも声掛けして区の防災担当から研修を受けるなど園内のみならず地域ぐるみで安全への取り組みができることを目指している。</p> <p><b>関連評価項目(利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる)</b></p>
2	<p><b>★ 園内研修に全職員が参加し、関連する専門機関や外部講師による研修で学びを深めている</b></p> <p>園内研修は、職員からの意見を基に「危機管理」「環境設定」「運動遊び」の3テーマを設定し、全職員がいずれかのグループに属して取り組んでいる。園内研修は日々の保育の検証を含めて取り組んでいるが、関連する専門機関や行政、専門家等外部講師による研修、区の研修への参加も多い。区立保育園が実施する公開保育にも参加し他園の保育を観察して学びを深めたり、全職員が救急救命の講習を受講したり、保育の基本となる研修に多く参加している。外部研修受講後は研修報告を書いて3カ月後・6カ月後の効果も確認しており、研修が活かされている。</p> <p><b>関連評価項目(さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している)</b></p>
3	<p><b>★ 子育てをしている親の思いを聞き取ることを丁寧にしていきたくて取り組んでいる</b></p> <p>子育てと仕事の両立をすることの大変さを理解し、保護者のそれぞれの事情に配慮し約束の保育時間を超えた連絡に対しても補食を用意するなどして支援ができるようにしている。保護者会でテーマを設けて少人数で話す時間を設け、保護者同士で話すことで自分の悩みの解消になったりすることを大事にしている。また、個人面談だけでなく毎日のかかわりが大事だと考え、必ず声をかけるようにしたり、保護者の声に耳を傾け育児の悩みを聞くことを通して不適切なかわりにならないように支援が必要と考え実施している。</p> <p><b>関連評価項目(保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている)</b></p>

## IV 利用者調査結果

### 調査概要

**調査対象:**平成 27 年 9 月 1 日現在の施設の利用者(保護者)111 世帯(利用者総数 129 名)を対象とした。

**調査方法:**アンケート方式

アンケート(自記式)。施設にて担任が保護者に手渡しする形で調査票を配付。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送又は施設に設置した回収箱による回収。

利用者総数	111 人
アンケートや聞き取りを行った人数	111 人
有効回答者数	86 人
回答者割合(%)	77.5%

### 総括

・総合的な満足度としては、「大変満足」が 37%、「満足」が 49%となっており、満足と答えた人が 86%を占めている。●設問の中で「はい」の比率が高かった上位は、次の項目であった。問1. 保育所で提供される食事・おやつは、子どもの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか(88%、76 人)問12. あなたは、職員が子どもの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか(84%、72 人)問9. あなたは、職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか(83%、71 人)問10. 子どもがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか(80%、69 人)

### 利用者調査結果

<b>1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか</b>							
はい	76 人	どちらともいえない	9 人	いいえ	1 人	無回答・非該当	0 人
給食は外注サービス(外部委託)でとても気をつけて頂きアレルギー対応もすばらしい、おやつ・食事ともに見た目もおいしそうで工夫されていて満足している、私も育児初心者なので園のメニューは参考になる、試食をする機会などもあり大人でもおいしく頂ける、だしの味をきちんときかせ薄味が良いと思う、野菜が多く薄味でとても良いと思う、薄味で素材重視をモットーに丁寧に作られている、などの意見があった。一方で午前おやつに煮物が多く年齢によっては食べにくいのではないか、果物の切り方、時間外保育のおやつに関する意見が散見された。							
<b>2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか</b>							
はい	66 人	どちらともいえない	15 人	いいえ	4 人	無回答・非該当	1 人
気候に合わせて遊ばせて頂いている、子どもの成長に合わせた遊びをしてくれる、家庭ではできないことを体験させてくださりありがたい、体育あそびもありとても良いと思う、工夫はわからないが子どもたちが喜んで遊んでいるのはわかる、乳児クラスはテラスやホールでの遊びがメインに感じる、園内のテラス遊びが多いイメージがある、夏はよく水あそびやプールをしてくれた、などの意見があった。							
<b>3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか</b>							
はい	59 人	どちらともいえない	15 人	いいえ	2 人	無回答・非該当	10 人
急な残業で延長をお願いする事もあるが先生方がいつも快く対応して下さる、という意見が多数あった。事情があり間に合わなかった時も、「大変でしたね」とこちらの立場を考えて接してくれる、遅れる連絡をすると最後には「気を付けて来て下さい」と言ってくれる、連絡をせずに遅れても笑顔で対応してくれる、などの具体的な意見もあった。							
<b>4. 安全対策が十分取られていると思うか</b>							
はい	53 人	どちらともいえない	28 人	いいえ	4 人	無回答・非該当	1 人
防災意識がとても高い、懇親会等で必ず防災の話をしてくれる、前回防災の話聞きに行ったがしっかり対策していると思う、起こりうることには事前に対処しているように思う、物に対しての安全の対策はとられてる、などの意見							

があった。また、納入業者が玄関門扉を開け放しにしていることがあり気になる、という意見もあった。							
<b>5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か</b>							
はい	67人	どちらともいえない	17人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
基本的に土・日開催であり時間帯にも配慮されており参加しやすい、という意見が多数あった。平日の行事でも早退しやすい時間帯で参加できた、やさしく声掛けて誘っていただき参加できた、などの意見があった。また、土曜日は仕事のため参加できない、敬老の日のイベントは祖父母が参加できない子どもの事も考えてほしい、などの意見もあった。							
<b>6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか</b>							
はい	63人	どちらともいえない	19人	いいえ	4人	無回答・非該当	0人
相談しやすい先生達ばかり、先生方みなさんとても話しやすい、という意見が多数あった。気になることがあれば「話して下さい」と言ってくれる、連絡帳や引き渡しの際に細かく伝えてくれる、色んなタイプの子がいるので一人ひとりに合った接し方や会話をしてくれると思う、「怒らないで」という具体的な言い回しを詳細に教えてくれた、などの意見があった。							
<b>7. 保護者の考えを聞く姿勢があるか</b>							
はい	68人	どちらともいえない	16人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
しっかり聞いて下さる、「園はこういう方針です」と答えてくれる、対応はきちんと出来ていると思う、子どもの事で不安があったり考えがあったりするとそれをよく聞いて園でもその事を考えてくれ助けてくれた、個人面談等以外にも送り迎えの時にも色々な話を聞いてくれる、園長先生がほぼ全てにおいて顔を出してくれているので安心感につながる、などの意見があった。							
<b>8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか</b>							
はい	67人	どちらともいえない	17人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
毎日そうじが行きとどいていて、いつも掃除してくれる方がいてキレイ、古い建物だが良く清掃・整理されている、古い園舎だが工夫されており物が乱雑と思っことは無い、感染症が少なくすばらしい、などの意見があった。また、玄関・階段など床が砂ボコリでザラついている事がある、1部屋の仕切り壁が多く圧迫感を感じる事があるので広々とした空間で自由に行動できるよう配慮してほしいと思う、行政側で水回りの設備など修繕の援助を積極的に行ってほしい、などの意見があった。							
<b>9. 職員の待遇・態度は適切か</b>							
はい	71人	どちらともいえない	9人	いいえ	6人	無回答・非該当	0人
年齢層が若いわりにはしっかりしていると思う、園長先生をはじめ先生方が親身になってくれるので安心、どの先生も名前をよく覚えていてくれて明るいし会えば挨拶や今日あった事を教えてくれる、乱暴な言葉遣いなどは聞いたことがない、態度・言葉遣いもほとんどの先生は好感が持てる、などの意見があった。							
<b>10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか</b>							
はい	69人	どちらともいえない	14人	いいえ	2人	無回答・非該当	1人
看護師の先生が常駐しているので少しのケガでも大げさなぐらい対応してもらっている、区立保育園時代から看護師の先生がとても良く対応してくれる、などの意見が多数あった。その他、最近ケガをしたがすぐに処置をしてその後病院と一緒にいった、すぐに冷してくれたりケガした後などは園長先生をはじめ先生方が声を掛けたりしてくれる、けいれんが多いので早めに連絡をいただき助かっている、以前ケガした時は毎日の通院等にも保育園で対応してくれた、歯が欠けた時も適切な対応でありがたかった。							
<b>11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか</b>							
はい	50人	どちらともいえない	28人	いいえ	4人	無回答・非該当	4人
子どもがかまれた事があるがとても適切に対応して頂いた、子どもたちの話を聞いて解決してくれる、きちんと報告をもらっている、などの意見があった。							
<b>12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか</b>							
はい	72人	どちらともいえない	12人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
寄り添うことを大切にしてくれる、子どもの落書きのような「手紙」にも返事をくださったことがある、一人ひとりに話をして一人ひとりの考えや気持ちを知ったうえで解決策を子どもたちに考えさせてくれる、子ども達の意見ややりたいたいことを良く聞いてくれる、子どもが先生を好きなので大切にもらっていると考えている、家庭では子どもの話や行動を流してしまいがちだが先生の対応は見習いたいと思うことがある、などの意見があった。							

<b>13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか</b>							
はい	67人	どちらともいえない	16人	いいえ	1人	無回答・非該当	2人
意見なし。							
<b>14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか</b>							
はい	66人	どちらともいえない	17人	いいえ	2人	無回答・非該当	1人
何かあればこういうふうに対応していこうと思っていると説明してくれる、説明を受ける機会は保護者会ぐらい、などの意見があった。							
<b>15. 利用者の不満や要望は対応されているか</b>							
はい	62人	どちらともいえない	19人	いいえ	3人	無回答・非該当	2人
連絡帳に相談を書いた時にとても親身になって答えて頂いた、夜に園長先生からお電話があり話を聞いてくれた、対応してくれる方はとても柔軟な考えを持っている、保護者の立場でも考えてくれ理解してくれる、要望はちゃんと覚えていてくれる、などの意見があった。							
<b>16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか</b>							
はい	39人	どちらともいえない	28人	いいえ	10人	無回答・非該当	9人
ホームページやパンフレットで知った、園の職員室前にオンブズマン制度の掲載があり不満・苦情の対応方法も貼ってある、利用しようとは思わないので必要はなかった、などの意見があった。							

## V 組織マネジメント項目(カテゴリー1~5、7、8)

※実施あり:○、実施なし:x、非該当:-

<b>カテゴリー1 リーダーシップと意思決定</b>			
<b>サブカテゴリー1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている</b>			
	<b>評価項目 1</b>	<b>事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している</b>	<b>実施状況</b>
	<b>標準項目 1</b>	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している	○
	<b>標準項目 2</b>	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	<b>標準項目 3</b>	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	<b>標準項目 4</b>	重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	○
	<b>評価項目 2</b>	<b>経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている</b>	<b>実施状況</b>
	<b>標準項目 1</b>	経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	○
	<b>標準項目 2</b>	経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	○
	<b>評価項目 3</b>	<b>重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している</b>	<b>実施状況</b>
	<b>標準項目 1</b>	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○
	<b>標準項目</b>	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○



	2		
	標準項目 3	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○
<b>講評</b>			
<b>理念・目標は、利用者・職員とも日常的に確認できる方法で周知している</b>			
<p>保育理念・保育目標を玄関に掲示している。利用者には、「西糺谷しろはと保育園ガイドブック」「大田区ガイドブック」に明記して、新入園児には入園前オリエンテーションで説明し、在園児には年度初めのおたよりや保護者会で説明し理解を得ている。職員には、年度初めの職員会議で保育理念・目標を読み合わせ、個々の職員が理念やビジョンを常時意識できるよう個人日誌(職員一人ひとりに配付している)に添付している。また、重要な意思決定を行う会議では理念や基本方針を確認しながら進めている。</p>			
<b>会議や園内研修等に関する年間の計画をしっかりと立て、計画的に取り組んでいる</b>			
<p>職務分担表に園長・主任・保育士・看護師・栄養士・調理師の職務内容が明記されており、職員には職員会議で園長の役割を表明している。園長・主任・リーダーは、保育理念に沿った保育が実施できているかどうか日々確認している。年度当初に園運営に関する年間会議計画を立て、園内研修を企画・実施し、保育の質の向上に努めている。特に、安全については保育環境をはじめ子どもの発達に応じた運動能力を培う体操、職員の危機管理意識を高めること等に力を注いでいる。更には保護者と共に子どもを守る取り組みを展開して保護者の信頼を得ている。</p>			
<b>重要な案件は法人理事会で決定し、職員会議や保護者説明会・おたよりで周知している</b>			
<p>人事・財務・保育内容等の重要案件は、法人の理事会に諮って決定している。理事会決定事項は月2回開催する職員会議で職員に説明して周知している。園内で決定する案件は、法人本部とも情報交換しながら職員会議で決定し、本部へ報告している。利用者に対しては必要に応じて保護者説明会を開催し、決定経緯を含めて説明している。26年度から調理を外部委託する決定をしたが、26年1月に保護者意向をアンケートで把握するとともに説明会を開催し、2月には園だよりに掲載して配付、年度末の保護者会で再度説明し、試食を行うなど段階を追っている。</p>			

<b>カテゴリー2 経営における社会的責任</b>			
<b>サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる</b>			
	評価項目 1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	実施状況
	標準項目 1	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○
	標準項目 2	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○
	評価項目 2	第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	実施状況
	標準項目 1	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○
	標準項目 2	透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○
<b>サブカテゴリー2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている</b>			
	評価項目 1	事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	実施状況
	標準項目 1	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○
	標準項目 2	地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○

	<b>評価項目 2</b>	<b>ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している</b>	<b>実施状況</b>
	<b>標準項目 1</b>	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○
	<b>標準項目 2</b>	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○
	<b>標準項目 3</b>	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○
	<b>評価項目 3</b>	<b>地域の関係機関との連携を図っている</b>	<b>実施状況</b>
	<b>標準項目 1</b>	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○
	<b>標準項目 2</b>	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○

#### 講評

##### 保育業務マニュアルに遵守すべき法律や倫理観を明記し、園内研修を行っている

就業規則、業務マニュアル、保育課程に遵守すべき法律や保育者としての倫理規定等を明記している。保育業務マニュアルに「望ましい保育士としての資質や態度」という項を設けて子どもの人権尊重に基づく保育士のあるべき姿を具体的に示しているほか、セクシャルハラスメントについても項目を設けて記載している。これら保育業務マニュアルを基に園内研修を行い、児童福祉法・保育所保育指針・労働基準法、個人情報保護法など基盤となる法制度についても具体的に職員に周知している。

##### 「産後セルフケア講座」を開催するなど地域に園の専門性を還元している

ホームページや第三者評価を受審して園の情報を広く発信しているほか、地域の小学校に園だよりを配付したり、行事に地域の方々を招いたりして園での取り組みを地域に知らせると共に園庭開放、体験保育、健康指導、子育て相談を日常的に実施している。また、「よちよちタイム」と称して地域の子育て支援(ベビーマッサージ、パネルシアター、健康教育など)を月に2~3回実施している。更に今年度は専門の講師を招いて「産後セルフケア講座」を実施し、子育ての礎である母親を対象に、地域の母親同士の交流のきっかけづくりの支援も行っている。

##### 園運営に貢献する継続的なボランティアの協力が得られている

業務マニュアルにボランティア受け入れについて収録し、マニュアルに沿って主任・看護師・リーダー職員がボランティア受け入れを担当している。受け入れにあたってはオリエンテーションを実施して園の考えや留意事項等を説明し、個人情報保護・守秘義務誓約書をもっている。元保育士のボランティアが継続的にパネルシアターを実施してくれるなど地域支援等の園運営にも貢献している。また、大学や保育専門学校の実習生、中高生の職業体験も積極的に受け入れている。

#### カテゴリ-3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

	<b>サブカテゴリ-1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している</b>		
	<b>評価項目 1</b>	<b>利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)</b>	<b>実施状況</b>
	<b>標準項目 1</b>	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○
	<b>標準項目 2</b>	利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○
	<b>評価項目 2</b>	<b>利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる</b>	<b>実施状況</b>
	<b>標準項目 1</b>	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○



	標準項目 2	事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○
	標準項目 3	利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○
	評価項目 3	地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	実施状況
	標準項目 1	地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○
	標準項目 2	福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○
	標準項目 3	事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○

#### 講評

**苦情解決制度については玄関に掲示し、園のガイドブック・ホームページで知らせている**

苦情解決制度の窓口、第三者委員を玄関に掲示しているほか、園のガイドブックやホームページにも図示してわかりやすく伝えている。玄関には意見箱(みんなの声)を設置し、意見が言いやすい環境を整えている。保護者からの意見については職員間で共有し、苦情対応マニュアルに基づき24時間以内に改善方針を回答している。更にその内容については掲示や園だより・行事アンケート結果に掲載して利用者全員に知らせている。

**利用者の意見要望は職員で共有し迅速に対応し、結果は全家庭に公表している**

保護者からの意見は、保護者会・面談・日々の登降園時の会話の中で聞き取り、行事後にはアンケートを実施している。意見・要望は、職員間で共有し、会議で話し合っ課題を明確にし、緊急度の高いものから改善を図っている。アンケート調査を行った時には結果をまとめ、おたよりで全家庭に配付し、対応策や次年度に活かすことを伝えている。昨年度は利用者意向を反映して、お昼寝の布団をマットに変更したり、保護者会の開催を土曜日に変更して兄弟・姉妹で在籍している場合は1日で済むよう日程・時間を調整したり、保護者の負担軽減に努めている。

**地域の子育て関連の連絡会、保健所等の関係機関から地域の福祉ニーズを把握している**

私立園長会、地域の子育て支援関係機関連絡会に参加し地域の情報を収集・把握している。更に保健所とも連携し、衛生面の指導や感染症等の情報などメールで受信する仕組みを有している。保育業界の情報については専門誌や関係団体から情報を収集している。子ども子育て支援新制度など国や行政の動きについては大田区私立保育園連合会で情報収集している。収集した情報は分析し、いつでも職員が閲覧できるように事務室に設置し、活用している。

#### カテゴリー4 計画の策定と着実な実行

	サブカテゴリー1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
	評価項目 1	取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	実施状況
	標準項目 1	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○
	標準項目 2	年度単位の計画を策定している	○
	標準項目 3	短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○
	評価項目 2	多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	実施状況
	標準項目 1	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○

	標準項目 2	課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○
	標準項目 3	計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○
	標準項目 4	計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○
	評価項目 3	<b>着実な計画の実行に取り組んでいる</b>	<b>実施状況</b>
	標準項目 1	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○
	標準項目 2	計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている	○
	標準項目 3	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○
	標準項目 4	計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○
	<b>サブカテゴリー2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる</b>		
	評価項目 1	<b>利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる</b>	<b>実施状況</b>
	標準項目 1	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○
	標準項目 2	事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○
	標準項目 3	事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○
	標準項目 4	事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○
<b>講評</b>			
<b>5カ年の中長期計画を立て、それを踏まえ単年度の事業計画を策定している</b>			
平成25年度に5カ年の中長期計画を立て、法人の承認を受け、主任と各クラスに配付している。保育制度の変革や人口減少、保育士不足などを長期的課題と捕らえ、地域、人材育成、保育内容、設備・建物・財政、その他の項目で課題と実行計画を記載している。それらを踏まえ単年度事業計画を策定し、保育理念・目標、保育内容、家庭との連携、人材育成、地域の社会資源との連携、苦情処理、リスクマネジメントの項目を立て、数値目標も記載している。中長期計画は目標年次の目標を明記し、事業計画とリンクさせると具体的な方向性がより明確になる。			
<b>事業計画に基づき保育計画を立て、計画的に保育サービスを遂行している</b>			
事業計画に基づき保育課程・年間指導計画・月案等の保育計画を立て、職員会議で確認している。計画の実行に当たっては、役割を分担し、園運営に関しては係りを決めて実行している。行事等の年間計画はもちろんのこと、地域支援計画、年間研修計画、職員会議の年間計画等を立て計画的に進めている。年度末の職員会議において計画の振り返りを丁寧に行い、課題を抽出している。また、私立園長会で得た情報や法人内の情報を事例として参考にし、より高い成果が得られるようにしている。行事後のアンケート等で得た保護者の意見・要望も反映している。			
<b>専門機関を導入した研修を行い、様々な角度から子どもの安全確保に取り組んでいる</b>			
危機管理マニュアルに沿って子どもの安全確保に努めている。年間計画に基づき、地震や津波などを想定した訓練を行うと共に専門機関を導入して研修を実施し、職員の意識向上に努めている。園内研修でも危機管理に取り組み、散歩先で災害が起きた場合の対応、避難場所への経路、防災備蓄等について研究・実践している。更に、防災の研修には保護者にも参加を促して共に学んでいる。事故等については職員間で共有し、年間のデータを分			

析している。今後は、職員の危険予知能力を高めるための意識啓発としてヒヤリハットの取り組みに期待したい。

カテゴリ-5 職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ-1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる			
評価項目 1	事業所にとって必要な人材構成にしている		実施状況
標準項目 1	事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している		○
標準項目 2	事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている		○
標準項目 3	適材適所の人員配置に取り組んでいる		○
評価項目 2	職員の質の向上に取り組んでいる		実施状況
標準項目 1	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		○
標準項目 2	事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○
標準項目 3	個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している		○
標準項目 4	職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている		○
標準項目 5	職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している		○
サブカテゴリ-2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる			
評価項目 1	職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		実施状況
標準項目 1	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		○
標準項目 2	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる		○
標準項目 3	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		○
評価項目 2	職員のやる気向上に取り組んでいる		実施状況
標準項目 1	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている		○
標準項目 2	就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる		○
標準項目 3	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる		○
標準項目 4	福利厚生制度の充実に取り組んでいる		○
講評			
法人の就業規則、園の業務マニュアルに望ましい職員像を示し、園で採用を行っている			
法人の人事に関する方針は就業規則に明記している。保育業務マニュアルにも望ましい保育士像が記されてい			

る。職員は、保育園が円滑に運営できるよう年齢や経験年数等を勘案して園長裁量で決定している。採用に当たって重視していることは「基本的に子どもが好きであること」であり、自分の育ちと大切にしてきたことを作文に書いてもらい、面接で保育に対する考え方を確認した上で、半年の試用期間を経て決定している。クラス担任等職員配置は、経験・性格・職員の組み合わせ・適正・能力を把握して園長が決定している。

**職員意向を把握して園内研修を行うなど、様々な研修に計画的に取り組んでいる**

園長が年に2回個人面談を行って、職員一人ひとりの意向や研修希望を把握している。職員の希望を踏まえ日常業務の状況を鑑み年間研修計画を策定している。園として必要な実技研修や子どもの心理に関する研修は、同法人系列園と連携して実施し、公開保育にも参加して職員間で情報を共有している。受講後は研修報告書を提出し、園長・主任に口頭で報告しているほか、報告書は職員に回覧して共有し、既読確認印を押している。研修計画は個人別にねらい・希望研修・実施・反省が記載されている。危機管理については昨年度から継続で園内研修を行っている。

**園独自の職員自己評価チェックリストを基に、園長面談を行っている**

人事考課制度はないが、園独自に職員の自己評価チェックリストを作成し、3期毎に自己評価を行い、それを持って園長との個人面談を行っている。自己評価の項目は、仕事への姿勢、仕事の進め方、職務知識・技術の活用、チームワーク、チャレンジ志向、リーダーシップに関する計68項目に亘っている。園長は年2回の面談のみではなく、職員から相談があった時にはすぐに対応して職員の意見を聞くように努めている。園長は職員の自己評価と客観的評価の乖離が課題と感じており、職員自身がスキルアップの計画を立て、状況を確認していくことが望まれる。

**カテゴリー7 情報の保護・共有**

**サブカテゴリー1 情報の保護・共有に取り組んでいる**

評価項目 1	事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	実施状況
標準項目 1	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○
標準項目 2	収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○
標準項目 3	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○
評価項目 2	個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	実施状況
標準項目 1	事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○
標準項目 2	個人情報の保護に関する規定を明示している	○
標準項目 3	開示請求に対する対応方法を明示している	○
標準項目 4	個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○

**講評**

**情報は機密性によって分類し、管理・保管に留意している**

園内の情報は原則として事務所から持ち出さないこととし、パソコンにはログインパスワードを設定している。職員間で情報を共有するために園内ネットワークを活用し、クラスごとにUSBを用意して仕事の効率化を図っているが、その取り扱いやカメラのSDカードは空にして持ち出すなど対応に留意している。機密性の高い児童票等の書類は鍵付きキャビネットに保管し、鍵は園長・主任がキーボックスで管理している。

**個人情報は法人の個人情報保護規則に基づき厳重に取り扱っている**



法人の個人情報保護規則に、個人情報の定義、利用目的、取得の制限、適正管理、個人データの第三者への提供および開示等について定められており、それに則って個人情報を扱っている。保護者には新入園児説明会で「個人情報および肖像権」について説明し、個人で撮影した写真やビデオの取り扱いも含め、個人情報同意書に署名を得ている。職員には個人情報の取り扱いについて就業規則・業務マニュアルに明記し、入職時に個人情報守秘義務に関する誓約書に署名捺印している。実習生・ボランティアについても個人情報の保護について同意を得ている。

**自己情報開示請求に関しては個人情報保護規則に則って対応している**

開示請求に関しては個人情報保護規則に明記し、情報開示請求があった場合の基本姿勢を就業規則に定め、職員には職員会議で周知している。保護者に対しては、「情報公開のお知らせ」を掲示して伝えている。開示請求に関しては「開示申出書」の書式を用意し、開示請求があった場合には所定の手続きを行っている。小学校入学に伴って提出する保育所児童保育要録に関しては、年度後半の保護者会で説明している。

**カテゴリ-8 カテゴリ-1～7に関する活動成果**

サブカテゴリ-1 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目 1	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ-2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ-4:「計画の策定と着実な実行」
評価結果	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
<p>地域の福祉ニーズを把握し、充実した地域支援事業を行って地域に貢献している</p> <p>・法人理念に地域社会への貢献が掲げられており、地域子育て支援「よちよちタイム」を、年間計画を立てて継続実施している。園庭開放は毎日実施、育児相談にも応じている。「よちよちタイム」では、園行事へのお誘い、ボランティアの協力を得て行うパネルシアター、ベビーマッサージやバランスボールなどのほかコンサートや「産後セルフケア講座」を開催し、地域で子育てをする母親同士の交流の橋渡しをするなど内容の濃いプログラムを実施している。安定した取り組みで26年度は累計70組の参加が得られ、今年度も参加者数が増加している。</p> <p>・園で力を入れている安全への取り組みのひとつである災害時の対応については地域と共に行うことが重要と考え、保護者や近隣の保育園も巻き込んで災害研修を行った。また、年10回程度実施している園行事や食育の一環として実施した「さんま丸ごと1匹を焼いて食べよう」には地域の一人暮らしのお年寄りを招いて子どもと一緒に食べてもらうなどの取り組みも行っている。</p>	
サブカテゴリ-2 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目 1	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-5:「職員と組織の能力向上」
評価結果	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
<p>園内研修を実施し、職員が目的意識を持って継続的に課題に取り組む力を培っている</p> <p>昨年度より園内研修を3つのグループに分かれて実施している。研修内容は、職員が何を習得したいか希望を出し、テーマを設定し、年間計画を立てて取り組んでいる。今年度は、危機管理、環境設定、運動遊びについて実施している。職員が継続して課題に取り組む姿勢が培われ、その結果、主体的に行動し会議や研修の中で自分の意見を持って臨むことができるようになった。職員調査結果にも職員が主体的に行動することが増えた、職員全員が研修に参加してそれを保育に生かそうと意欲的に取り組んでいる、等の意見が散見された。</p>	
サブカテゴリ-3 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目 1	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ-7:「情報の保護・共有」
評価結果	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている

保護者への連絡を行き届かせるためにメール配信システム活用に取り組んだ

- ・災害時の緊急連絡体制の一斉メール配信システムを保護者に普及する目的も兼ね、日常的にも保護者への連絡を行き届かせるためにメール配信システムを活用した情報提供に取り組んだ。情報の保護に関しては、入園時の説明会や保護者会、おたよりで知らせ、理解が得られている。職員にはSNSについての危機管理研修も実施し、意識も高まった。保護者向け掲示板も新設し、繰り返し丁寧に知らせることに努めた。
- ・衛生面のことも考え、午睡時のふとんを乳児クラスから順次昼寝マットに変更している。保護者の布団カバー交換や布団干しの労力も削減できている。
- ・保護者会を土曜日に実施し、更に兄弟関係を考慮し、兄弟がいる家庭は1日で保護者会がすむように日程を調整するなど保護者要望を反映させている。

サブカテゴリー4 事業所の財政等において向上している

評価項目 1	財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている
評価結果	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている

補助事業の活用や給食の外部委託、省エネの意識付けで収支バランスに貢献している

- ・給食を十分吟味して選定した専門業者に事業委託することで、安く新鮮な食材を使った給食やおやつが提供されるようになり、メニューの幅も広がり利用者からも好評を得ている。
- ・今年度は、木を用いて園舎内の床等内装を整備したいと考え、子どもの施設に多摩産材を使って木とのふれあいを推進する都の助成制度に申請して採択され、環境整備に取り組んでいる。
- ・目に見えにくい電気料金等の公共料金や印刷費に関する費用へのコスト意識が希薄になりがちであったため、最大電力監視システム(30分最大需要電力計)を導入した。また、蛍光灯をLED照明に付け替え、デジタル複合機を入れ替えてコピー印刷の単価を下げる事ができた。その結果、職員が意識して不要な照明や空調を消すようになり、一定の使用量を保つことができています。

サブカテゴリー5 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目 1	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」
評価結果	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている

地域の福祉ニーズを的確に捉えた地域支援事業を実践している

行事終了後にアンケートを実施したり、利用者調査(第三者評価)を実施したりすることで、保護者の要望や園の課題を把握し、改善に努めた。地域のニーズは、園の見学、地域支援事業「よちよちタイム」参加者に直接聞いたり、アンケートに記入してもらったりして把握している。できるだけ多くの利用者から意見を聞き取るために回収箱を工夫し、意見や要望に即時に対応するよう取り組んだ。更には、園の段飾りのお雛様を見に来たお年寄りに園長が声掛けしたことがきっかけとなり、園の行事に地域のお年寄りをお誘いするようになり、地域の民生委員の協力を得ながら地域との連携を深める取り組みが行われている。年10回程程度の園行事や食育行事「さんま丸ごと1匹焼いて食べよう」には、地域で一人暮らしをしているお年寄りを招くなど、地域の福祉ニーズを的確に捉えた取り組みが実現している。地域支援事業への参加者や見学者の数も増加している。

## VI サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6)

カテゴリー6 サービス提供のプロセス			
サブカテゴリー1 サービス情報の提供			
	評価項目 1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	実施状況
	標準項目 1	利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○
	標準項目	利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいもの	○



	2	にしている	
	標準項目 3	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○
	標準項目 4	利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○

**講評**

**利用希望者には区の保育ガイドやホームページで情報を提供している**

利用希望者には法人のホームページで法人の理念や保育理念・保育目標を記載し、園のニュースとして保育活動の様子を写真入りで紹介している。区の保育ガイドがあり、公共施設の窓口に置かれ希望者が何時でも見ることができるようになっている。パンフレットは手に取りやすい大きさと、園の特色ある保育として日常の保育をベースに運動遊びや異年齢交流・食育などの取り組みや行事の様子を写真を入れてわかりやすく、見やすく工夫し掲載している。

**保育園の情報を地域に向けて提供している**

区のホームページに園の情報を掲載したり、「保育ガイド」に園の保育理念や保育目標・定員などの概要を掲載している。また、地域の小学校・中学校・民生委員などに毎月の園だよりを郵送したり、保育園に遊びに来る保育ママに園だよりを渡している。園医や児童館・保健センターに月1回行われる子育て支援事業の取り組みの内容を掲示してもらったり、園の情報を地域に発信している。

**利用希望者の個別の状況に合わせた対応をしている**

利用を希望する場合には随時受け付け要望に副い、園見学者予約表に記入している。園に来た人には体験保育や園庭開放など見学だけでなく経験をしてもらえるように声をかけている。年齢が小さい場合には子育て支援事業に誘ったり、離乳食の献立表を渡したりしている。見学者には園長や主任が対応している。見学者が一人よりもお互いに知り合ったり、質問などを通して情報の共有ができればと人数を複数にすることもある。見学者からは慣らし保育のことや保育時間・発熱の際の対応等の質問が寄せられている。

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応			
	評価項目 1	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	実施状況
	標準項目 1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○
	標準項目 2	サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○
	標準項目 3	サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
	評価項目 2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	実施状況
	標準項目 1	サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
	標準項目 2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○
	標準項目 3	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○

**講評**

**入園のオリエンテーションを開催し、保護者に説明をしている**

サービスの開始前の3月上旬に新入園オリエンテーションを実施し、保育園ガイドブックに沿ってプレゼンテーション用ソフトで園の基本ルールや重要事項、保育園ガイドブックの内容を園長・看護師・栄養士が分担して保護者に

説明をしている。同日に子どもの個別の生活状況を把握するために、0歳児は保育士・栄養士・看護師・園長が、1歳児以上は保育士・看護師・園長が、保護者と個別に面談をしている。ガイドブックに沿った説明に対し、理解をしたら各項目に丸印を付けて署名をもらう確認票が作成されている。

**子どもに関する情報は入園時の面接で確認をし、決められた書式に記録している。**

子どもの個別の情報は、食事や保健・生活状況などを児童調査票や新入園児面談記録用紙に記入し把握している。入園時の面談でアレルギー食等の提供が必要な場合には具体的に提供内容を聞き取ったり、延長保育の利用方法を聞き取ったりするなど保護者の意向を確認している。面接で得た子どもの個別の情報は、新入園児面談記録を基に職員会議で情報を共有し全体的に把握している。

**子どもの生活リズムを把握しながら安心して園の生活に慣れるようにしている**

入園の園長面接時に慣らし保育の保護者の意向を聞き予定を決め、4月初日に再度確認をしている。慣らし保育の1日目は保護者と一緒に過ごしてもらい食事や遊び、子どものくせなどを観察をし、子どもに沿った対応ができるようにしている。2日目以降は昼までなど徐々に時間を延ばし、1週間をめどに希望の保育時間にしていきたいと考えている。子どもが安心して過ごせるように、家庭の生活を把握しながら無理のないように、園の生活に慣れさせていけるようにしている。

サブカテゴリ3 個別状況に応じた計画策定・記録			
	評価項目 1	定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	実施状況
	標準項目 1	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○
	標準項目 2	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○
	標準項目 3	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○
	評価項目 2	子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している	実施状況
	標準項目 1	計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○
	標準項目 2	計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○
	標準項目 3	計画を保護者にわかりやすく説明している	○
	標準項目 4	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○
	標準項目 5	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○
	評価項目 3	子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	実施状況
	標準項目 1	子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○
	標準項目 2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○
	評価項目 4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	実施状況
	標準項目 1	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
	標準項目	子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○

	2		
<b>講評</b>			
<b>日常の保育や連絡帳などを通して子どもの状況を把握し、記録している</b>			
<p>子どもの日々の生活は0歳児から2歳児は連絡帳で、3歳児以上は検温表で健康状態を把握している。発達の姿のチェックは記録用システムの個別児童票を使用して0歳児は1ヵ月毎、1歳児は2ヶ月毎、2歳児以上は3ヵ月毎に成長を確認している。2歳児までは個別カリキュラムを作成し、個別の発達や課題を明確にして記録している。今年度から「すくすくプラン」と称して保護者と一緒に子どもの姿を確認し、育てたい力や具体的な支援や手助けを考え保育を進めている。</p>			
<b>子どもの状況を踏まえ保護者と共に計画を作成し、見直しをしている</b>			
<p>年間指導計画は4期に分けて立案し、年度の初めの保護者会で年間計画の内容を伝えている。毎月の計画は、園だよりでクラス目標を保護者に知らせると共に週の計画を保護者向けに掲示している。年間の個人目標を立案し個人面談の時に保護者と一緒に確認して見直しを行い、年度の終わりには計画の到達点を保護者と一緒に確認し次年度に繋がるようにしている。月の指導計画は昼と夜に行う職員会議で個別の状況も一緒に報告をし、見直しや振り返りを行っている。計画を緊急に変更した時には用紙の裏に変更内容を記入したり、赤ペンで変更を書いている。</p>			
<b>子どもに関する情報を職員間で共有できるよう更なる工夫が必要と考えている</b>			
<p>子どもの状況はクラスで打合せをして職員会議でクラスの保育内容と共に個別の子どもの様子を報告し、職員間で把握し共有する機会をつくっている。クラス代表が参加して毎日行われる昼礼で報告されたことや月1回の職員会議の内容は、ノートや会議録に記録し、参加できない職員はノートや会議録を確認することになっている。緊急に確認する必要がある場合には昼に会議を開催して伝え、検討することもある。勤務形態が様々な非常勤職員には非常勤用のファイルを準備しているが、書き方など情報の伝え方により変わるので検討が必要と考えている。</p>			

サブカテゴリー4 サービスの実施			
	評価項目 1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている	実施状況
	標準項目 1	子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○
	標準項目 2	子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している	○
	標準項目 3	子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している	○
	標準項目 4	特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○
	標準項目 5	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○

<b>講評</b>			
<b>子どもの発達の姿は日常の保育で把握し、保育日誌や児童票に記録している</b>			
<p>子どもの生活状況や発達の過程は日常の保育で把握し、乳児クラスは個別日誌や連絡帳に、幼児クラスは保育日誌や検温表カードに記録し、把握している。全園児、個別児童票の管理システムで0歳児は毎月、1歳児は2ヶ月毎、2歳児以上は3ヵ月毎に発達チェックを行い、管理している。毎月行われる職員会議で子どもの近況状況を報告したり、カリキュラム会議で個別のケースの話し合いを行い記録している。</p>			
<b>子どもが落ち着いて遊ぶことができるように環境の構成を工夫している</b>			
<p>子どもが主体的に遊ぶことができるように園内の環境構成を検討し、遊びの種類毎にコーナーを作ったり、遊具は木製で手触りのいい物を選び、子ども自身が手にとって遊び、管理しやすいように配置を工夫するなど配慮している。また、コーナーの柵の高さや配置を考え落ち着いて遊びに集中できる環境になるようにしている。散歩や園</p>			

庭の遊びの中で異年齢で交流する機会を作ったり、意図的に異年齢での活動を取り入れたりしている。外国のお金を紹介したり、絵本の中にある国旗を見て国旗をつくるなどの異文化に触れる機会をつくっている。

**個別に配慮した対応や子どもの気持ちを尊重した保育ができるようにしている**

配慮が必要な子どもの保育にあたっては、個別に必要な対応を職員間で話し合うようにしている。子どもが困っている様子が見られた時には、その様子に気づかせたり、どうしたら嬉しい気持ちになるかを伝えるなど、共に成長できるように働きかけている。嘔みつきなどのトラブルは入園時のオリエンテーションの時に両者に伝えることを話しているのでそれに沿った対応をしている。トラブルに対しては行為を注意するだけでなくお互いの気持ちを言葉にして伝える仲立ちをしている。幼児クラスでは当事者同士やクラス全体で考える機会をつくっている。

評価項目 2	家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている	実施状況
標準項目 1	登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○
標準項目 2	発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている	○
標準項目 3	休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○
標準項目 4	お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○

**講評**

**子どもの様子を連絡ボードに記入し担任が保護者に伝えるようにしている**

朝の受け入れ時には健康観察を行うと共に、口頭や連絡帳・検温表を通して保護者と確認をして連絡ボードに記入するようにしている。お迎え時には乳児クラスの担任は18時15分までは原則として直接子どもの状況を保護者に伝えるようにしている。担任が会えない時には連絡ボードに記入した内容を遅番担当が伝えるようにしている。子どもの状態によっては電話連絡をするなど丁寧な対応を心がけている。幼児クラスの活動の様子はクラス毎に記入されテラス側に置かれ、夕方には廊下の一角に移動して掲示され、保護者が確認できるようにしている。

**「すくすくプラン」を活用して基本的な生活習慣の大切さを確認できるようにしている**

年度の初めの保護者会で保育園の生活の様子を写真にとって伝えたり、家庭の状況を把握しながら基本的な生活習慣の大切さや取り組みの様子を連絡帳などを通して知らせている。園として区で取り入れている個別の計画の「すくすくプラン」に取り組んでいる。個々の子どもの発達年齢や姿を踏まえた計画を保護者と一緒に内容を考える中で基本的な生活習慣の大切さについて確認し、身につくように支援を行っている。

**子どもの状況や年齢に配慮した休息時間を実施している**

連絡帳や保護者からの連絡を踏まえ、子どものその日の個別の状況を把握して午前寝も含め対応をしている。夜なかなか寝ないなどの保護者からの相談に対して、15分から30分ぐらい早く起こすなどの配慮をしている。年長クラスでは就学に向けて1月下旬頃から徐々に寝る時間を少なくして、3月に入ると午睡をなくすなど子どもの年齢や状況に応じた配慮をしている。

評価項目 3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	実施状況
標準項目 1	日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○
標準項目 2	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○
標準項目 3	子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○
標準項目 4	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○



<b>講評</b>			
<b>保育目標を反映した保育活動を日常的に行うようにしている</b>			
<p>毎日の保育は年間指導計画を基に月案や週案を立案しそれに沿って行われている。週案はねらい・具体的な活動内容・配慮事項を記入し保護者に保育活動を知らせるために掲示している。0歳児から2歳児は個別の月案を作成し、きめ細かい個別の関わりができるようにしている。保育目標の一つに心身ともに健康な子があり、毎朝、園庭で身体を動かすことで脳を覚めさせ、体内リズムを整え健康な身体になるために、体操をするなどの運動遊びに取り組んでいる。</p>			
<b>子どもが主体的に遊びを選んだり集団活動に取り組む機会をつくっている</b>			
<p>室内環境をパーテーションで仕切ってコーナーをつくり、ままごとや積み木・パズルや折り紙・手先を使って遊ぶ遊具などを手に取りやすいように置き、子どもが自分で遊びを見つけ、じっくり遊びこめる環境を工夫している。0歳児から2歳児は緩やかな担当制をとっていて、少人数でのかかわりや自発的な遊びを大切にしている。幼児クラスは日常の保育活動や行事などの機会に子どもたちと一緒にプログラムの内容や発表の仕方を話し合ったり、子ども同士で遊び方のルールを考えたり、集団活動に主体的にかかわる機会をつくっている。</p>			
<b>公園にでかける機会を作り、自然の中で季節を感じ取る経験を大事にしている</b>			
<p>園の周辺には13箇所の公園や神社があり、咲く花や木々の季節による変化を感じたり、虫の声を聞いたり、木の実を見つけて歩くなどの自然に触れた経験ができる機会を大切にしている。コミュニティー農園を活用して芋掘りに行き、掘ってきた芋で焼き芋をするなど収穫したものを食べる機会もある。園庭の一角で夏野菜を植えて育てたり、田んぼを作り稲の苗を植えたり、さつまいもを育て収穫するなど、季節をまたぎ作物の成長の様子を感じ取る機会をつくっている。</p>			
	<b>評価項目 4</b>	<b>行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている</b>	<b>実施状況</b>
	<b>標準項目 1</b>	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○
	<b>標準項目 2</b>	子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○
	<b>標準項目 3</b>	行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○
	<b>標準項目 4</b>	保育所の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○
<b>講評</b>			
<b>日本の文化を大事にした行事を経験したり、興味を持って取り組める活動を実施している</b>			
<p>日本の文化を伝承して行けるように、夏祭りやお正月遊び、節分などの遊びを保育活動の中に取り入れ経験できるようにしている。職員が造形の研修の中で衣装を作りファッションショーをやった経験を子どもたちに見せると子どもの中からやりたいの声があがり、子どもが主体的に取り組む活動になった。行事のために何でも頑張って取り組むだけでなく、子どもが興味をもって遊んでいる活動やその姿からどのような行事内容にしたらいいかを考える機会が必要で絵本やお話、子どもの遊びを通して子どもと一緒に行事の内容を計画できたらと園長は考えている。</p>			
<b>年間の行事は年度の初めに説明をし、おたよりや掲示板で知らせている</b>			
<p>年間の行事の予定は年度の初めに配付し、運動会や生活発表会などの保護者参加の行事は参加しやすいように土曜日に行うようにしている。行事の近くになると、行事のねらいやクラスの競技内容、取り組みの様子などを園だよりやクラスだよりの他掲示板を利用して知らせ、取り組みに対して理解が得られるよう工夫している。</p>			
<b>園の行事はホームページなどで地域に呼びかけ誰でも参加できるようになっている</b>			
<p>園のホームページやおたより・掲示板などで行事のお知らせをして参加の呼びかけをしている。また、町会や民生委員を通して七夕の交流会や夏祭りなどに地域の親子やお年よりも気軽に参加できるようにしている。ホームペ</p>			

ーじを見た地域との親から問い合わせがあったり、地域に声をかけた年間10回程の行事には1回に6～7人の高齢者が喜んで参加し、園庭でサンマを丸ごと食べる機会を作り綺麗に食べている様子を見るなど、子どもが職員以外の人と触れあう機会をもっている。

評価項目 5	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	実施状況
標準項目 1	保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○
標準項目 2	年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○
標準項目 3	子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○
標準項目 4	お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○

**講評**

カーペットを敷き、クッションを置くなどしてゆったりできるようにしている

18時15分になると乳幼児合同保育が始まるが全体で20人近い子がいるので、乳幼児別々の保育室で保育したり、パーテーションやコーナーの棚で空間を仕切って落ち着いて遊べるようにしている。環境グループの話し合いの中で延長保育の時間帯のおもちゃについて検討をし、年齢に合った遊びができるよう工夫したり、話し合った結果を実践し写真に取るなどして職員会議で報告している。年齢の違う子が過ごすのでクッションやカーペットを置くなどして延長の保育室がくつろげる環境になるよう工夫している。

連絡事項は連絡ボードに記入し、保護者に伝えられている

連絡ボードは個別の子どもの登園時間と降園時間・家庭からの連絡・クラスからの連絡・遅番からの連絡を記入し、職員間で引継ぎ連絡事項を漏れなく保護者に伝えることになっている。保育活動での子どもの姿は乳児は連絡帳・幼児はクラスの活動が掲示され確認できるようになっている。延長保育の指導計画や日誌があり、補食や夕食のメニュー・喫食状況や時間の他、子どもの姿を記入し、気づいたことを保護者に伝えている。直接保護者に伝えた方がいいことは電話で伝えている。延長保育に固定した職員を一人つけ子どもが安心して過ごせるようにしている。

評価項目 6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	実施状況
標準項目 1	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○
標準項目 2	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○
標準項目 3	子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○
標準項目 4	食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○
標準項目 5	保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○

**講評**

子どもが落ち着いて食事ができるような環境を整えている

0歳児クラスは発達段階にあわせた離乳食と共に、食事の方法を抱っこ・ラック・トッター・テーブルと成長に合わせて換えたり、2歳児クラスではトイレや手洗いの時間が集中してしまうこともあり、コーナーやパーテーションを利用して少人数のグループに分かれ時間差をつけて食べるようにするなど、無理のない生活の中で食べることに集中できるような環境を整えている。

献立は野菜や魚を中心に作成し、子どもの個別の状況にあった給食を提供している。



献立は子どもの健康を考え24節気を大切に、魚や野菜を中心にした内容になっている。毎日の喫食状況は昼礼で報告され、検食日誌の内容と共に献立や味付けに活かされる。アレルギーの除去食が必要な子どもへの対応は保護者からの依頼と共に医師の指示に基づいて代替品が提供されている。誤食を防ぐために個別のトレーに子どもの写真と除去が必要な食品を記入したカードを置き、食器の色も換えて重ねてチェックすることになっている。体調が不良の場合には個別に応じた給食が提供できるようにしている。

#### 栽培した野菜を食べたり、自分で食べる量を決めて配膳している

年間食育計画を作成し、それに基づいて食材の下ごしらえの皮むきをしたり、枝豆のもぎ取りをするなどを経験する機会がある。プランターでトマトやピーマン・なすなどを栽培し、それをみんなで食べたり、給食のご飯と味噌汁は自分で食べられる量を決めて自分で食器に入れて配膳をしている。毎日給食の展示をしているが、園舎に入るまでの登園経路を考え0歳児室も含め3箇所に展示し、どんな食材を使っているのかが分かるように見やすく展示し、子どもの食に興味を持ってもらえるようにしている。

評価項目 7	子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている	実施状況
標準項目 1	けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○
標準項目 2	医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○
標準項目 3	保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○

#### 講評

#### 毎朝の体操遊びが子どもの体づくりと健康の維持に役立っている

毎週1回幼児クラスで体育遊びに取り組んだり、毎朝園庭で体操をして身体や脳を目覚めさせるよう身体を動かすことを繰り返す中で感染症の罹患率が下がったり、怪我をする子が減ってきている。年間10回の健康教育を行い、交通安全や歯の磨き方などを通して身の回りの危険について伝える機会を計画的につくっている。日常的に手洗いのあとにペーパータオルを使ったり、手洗い消毒器を園舎の5箇所に置き、感染症の予防に努めている。

#### 子どもの健康に対する考え方を伝えたり、感染症の情報を提供している

入園時や折にふれ、薬は原則預からないことを伝えている。やむを得ず持ってきたときは与薬依頼書を提出してもらい対応をしている。園で怪我をして与薬が必要な時にも与薬依頼書を提出してもらっている。感染症発症時には園内の2箇所に掲示し保護者に伝えている。毎月の保健だよりで病気や感染症の予防について知らせている。乳幼児突然死症候群の予防のために朝の健康観察を行い、入園すぐの睡眠の観察は5分～10分毎に、その後は0歳児は10分毎に、1、2歳児は20分毎に3歳児以上は30分毎に睡眠をチェック表を使って確認をしている。

評価項目 8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	実施状況
標準項目 1	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○
標準項目 2	保護者同士が交流できる機会を設けている	○
標準項目 3	保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○
標準項目 4	保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○
標準項目 5	子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○

#### 講評

保護者の個別の状況に柔軟に対応できるようにしている

保護者の急な残業や病気・用事などで保育時間を過ぎるときには、事情に配慮して柔軟に対応している。延長保育を急に利用する保護者が多いので、補食を人数より多めに用意し、急な利用にも対応できるようにしている。休みがちの子どもの家庭に対して登園を促す連絡をするなどきめ細かい配慮をしている。また、個人面談だけでなく毎日の送迎時に保護者に声をかけたり、話を聞くなどして保護者の負担の軽減につながる働きかけができるように心がけている。

**懇談会などを通して保護者同士での交流をし子育ての大変さを共有できるようにしている**

保護者会を開催するときに話したいことのアンケートを取り、保護者同士が話す機会を設けている。アンケートには食事のことやイヤイヤの対応等が出され、それを基に少人数で話し合うことで同じような悩みを抱えていることが分かり、子育ての大変さが緩和されたとの声を聞くこともある。保護者との信頼関係を深めるためには、子どものことを良く見て伝えることと保護者の話をよく聞いて受け止めることが大切と園長は考えて職員に伝えるようにしている。

**保護者参加の行事にはアンケートを取り、意見や提案を聞く機会を設けている**

個人面談や「すくすくプラン」の作成の時に保護者と話し合う機会を設けている。また、保護者参加の行事の時には必ずアンケートを取り、保護者の意見を聞く機会を設けている。音楽のコンサートに対して好評な感想が寄せられたり、寄せられた意見の中に上靴を何故履かないかという意見があり検討をし、防災上履く必要があると判断をして保護者に知らせるなど内容によっては早急な対応をすることを心がけている。意見箱を設置することで園に対して意見を言いやすいようにしている。

	評価項目 9	地域のニーズに即した子育て支援を実施している	実施状況
	標準項目 1	地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○
	標準項目 2	地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○
	標準項目 3	提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○

**講評**

**地域に向けた子育て支援事業を実施し、親子が楽しむ機会を提供している**

地域に根ざした家庭的な保育園を目指しているため、ホームページや掲示板などで園の活動への参加を呼びかけている。年間計画を立て毎月「よちよちタイム」としてベビーマッサージやパネルシアター・運動会や新年会などの園の行事に参加する機会のほか、看護師による夏の健康や湯遊びのことを話してもらうなど専門性を活かした内容になっている。

**地域の親同士が交流する機会をつくり、参加者からアンケートを取り見直しをしている**

地域子育て支援事業の「よちよちタイム」の中で親同士が交流する時間を設けるなどして交流する機会をつくっている。また、地域の親が園を見学するときに複数で見学できるように日時を決め親同士が交流するきっかけをつくるようにしている。毎月の「よちよちタイム」が終了すると参加者から感想や希望のアンケートを取り、次回に活かすようにしている。年間の予定が終了すると日時や内容・参加人数や次年度への引継ぎを一覧表にまとめ見直しや引継ぎを行っている。

サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
	評価項目 1	子どものプライバシー保護を徹底している	実施状況
	標準項目 1	子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
	標準項目 2	子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○

	評価項目 2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	実施状況
	標準項目 1	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
	標準項目 2	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○
	標準項目 3	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
	標準項目 4	子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常的言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○
	標準項目 5	虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○

#### 講評

**法人の個人情報保護規定に沿ってプライバシーの保護や関係機関と対応している**

法人の個人情報保護規定に基づき、保育園ガイドブックに個人情報や肖像権についての内容を記載している。個人情報の使用目的や園内掲示についての内容を明示し、保護者から同意書を提出してもらっている。保育所保育児童要録を小学校に提出することや就学支援シートを関係機関に送付するなどの開示については、年度の初めの保護者会で説明をしている。プライバシー保護の研修を通して書類など個人情報の取り扱いについての意識が高まっている。

**子どもの羞恥心や気持ちを大切にされた支援ができるようにしている**

子ども一人ひとりの人権に配慮した保育が行われるように、年度の初めにマニュアルをクラスで読みあわせをして職員間で確認をしている。子どもの羞恥心に配慮しオムツ交換の際にはロールカーテンやつい立の中で行うようにしている。身体測定の際にはカーテンやつい立を利用するなどの工夫をしている。業務マニュアルに基づき不適切な対応について具体的に事例をあげながら打合せを利用して話し合ったり、自己評価チェックリストを活用し個別に言動を振り返る機会をもっている。

**虐待に対する理解を深める取り組みをしたり、関係機関との体制を整えている**

虐待に対する知識を深めるために勉強会を実施したり、早期発見ができるよう子どもの状態を見る視点のチェックリストをクラスで活用して、チェック内容を確認している。育児困難家庭を事前に把握し保護者へのきめ細かい対応ができるようにしている。また、虐待の疑いのある場合には、クラスから園長に報告があり、それに基づいて児童相談所などの関係機関と対応することになっている。保護者の価値観に配慮できるよう、個別の事情による要望にも柔軟に対応している。

サブカテゴリ6 事業所業務の標準化			
	評価項目 1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	実施状況
	標準項目 1	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○
	標準項目 2	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○
	標準項目 3	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
	評価項目 2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	実施状況
	標準項目	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定	○

	1	められている	
	標準項目 2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
	標準項目 3	職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
	評価項目 3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	実施状況
	標準項目 1	打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
	標準項目 2	職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
	標準項目 3	職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○
	標準項目 4	職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
	標準項目 5	職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○

#### 講評

##### 業務の水準化を図るためにマニュアルが整備され、活用されている

業務の一定水準を確保するために、業務マニュアルや危機管理マニュアル・安全保育の手引き・アレルギーマニュアルなどが整備され、業務マニュアルを中心に基本事項を確認して職員に周知している。園内研修でマニュアルを読み合わせたり、日常的に活用できるよう各クラスに常備し、何時でも確認できるようにしている。園庭の設備点検や戸締りチェック表、事故対策チェックリスト・衛生管理チェックなどを使って定期的に園舎内や業務内容を点検・見直しをしている。

##### サービス向上のために業務水準の見直しや改善に取り組んでいる

マニュアルは年1回、緊急性のあるものや短期・長期に分類してリーダー層を中心に見直しを行っている。保護者参加の行事のアンケートを取り、職員会議で検討した結果を次回に反映をしている。職員から出た意見を基に、0歳児の柵に柵を付けたり、レースのカーテンを扉に変えるなど子どもの遊ぶ環境を工夫している。また、広く地域へ情報を発信するために掲示板を新たに設けることの提案があり、設置するなどの改善が行われている。

##### 園内研修のグループを立ち上げ業務水準の確保ができるようにしている

業務マニュアルの確認を年度の初めに職員会議やクラス打合せでも行っている。外部研修や園内研修も含め1人が年に7～8回参加する機会に恵まれている。参加した研修の報告や学んだことを活かしているかなど振り返る機会を設けている。環境グループ・危機管理グループ・運動遊びグループの3つのグループがあり園内研修に位置づけ、学ぶ機会をつくって園内業務がスムーズに行えるようにしている。危機管理研修で救急救命や防犯研修を行ったり、園舎全体の危険箇所やクラス内の安全点検を月に1回は行うなど子どもの安全に配慮できるようにしている。